横浜医学，63，589-595（2012）

原　著

満腹と膨満：日本人は区別しているか

坂本康成[1)]，稲森正彦[1,2)]，井上　祥[3)]，飯沼端恵[1)]，
関野雄典[1)]，飯田　洋[1)]，遠藤宏樹[1)]，野中　敬[1)]，
古出智子[1)]，高橋宏和[1)]，米田正人[1)]，日下部明彦[1)]，
後藤英司[3)]，中島　淳[1)]，前田　愼[1)]，本郷道夫[4)]，

[1)] 横浜市立大学附属病院　消化器内科
[2)] 横浜市立大学附属病院　臨床研修センター
[3)] 横浜市立大学医学部　医学教育学
[4)] 公立黒川病院　内科

要　旨

【目的】近年，機能性消化管障害の診療等で症状の評価が見直されている．同じように“腹がふくれる”症状を表す言葉に満腹と膨満があるが，その区別の詳細は不明である．本研究の目的は，日本人が満腹と膨満をどのように区別しているかを調べることである．

【方法】健常男性17名を対象とし，腹部症状の定量的評価の方法として，Boeckxstaens の飲水試験を行った．飲水試験で得られる問診表をはじめとする情報を解析し，満腹感と膨満感の関連につき考察した．

【結果】最大飲水量の中央値は1350mL であった．満腹感と膨満感について問診表における推移を解析すると，満腹感優位型（29.4%），膨満感優位型（23.5%），満腹感先行型（11.7%），膨満感先行型（29.4%），同等型（5.8%）に分類された．最大飲水量と BMI のみ正の相関が認められた（P＝0.0445）．満腹，膨満，嘔気は全員に出現し，その閾値容量は各々相関していた．

【結論】満腹感と膨満感は個々により捉え方が異なる可能性が示唆された．

Key words: 満腹（Satiety），膨満（Bloating），飲水試験（Drink test），症状（Symptom），機能性胃腸症（Functional dyspepsia）